

日銀神戸 支店長の 視点

竜田博之氏



日本銀行は、本行の当座預金口座などを通じた、取引先金融機関との間の資金や国債の決済をオンライン処理により効率的かつ安全に行うため、日本銀行金融ネットワークシステム（日銀ネット）を提供しています。

皆さんは、日頃、ATM等を利用して振り込みや送金をされていると思いますが、その裏側では、国内のほとんどの預金取扱等金融機関が参加している全国銀行データ通信システム（全銀システム）を通じて関連するデータのやりとりがなされています。このデータのうち1件1億円以上の取引については全銀システムのセンターから日銀ネットにデータが直ちに送信され、日本銀行当座預金口座上で1件ごと即時に決済

資金決済と日本銀行

（債権・債務が解消される）
がなされます。一方、1件1億円未満の取引については、全銀システムのセンターで個々の支払指図を集計したうえで、金融機関ごとに受払差額を計算し、その結果を日銀ネットにオンラインで送信します。

この送信結果に基づき、当日の夕方に、各金融機関と全銀ネットとの間で、日本銀行当座預金の入金または引き落としを行うことにより、「最終的に」決済されます。

このように日本銀行を含む決済システムの運営主体は、ATM等の裏側の処理で、「最終的な」決済までの大事な役割を担っているため、障害対応等のリスク対策でも、万全を期すことが求められています。

話は変わりますが、先般、東京で美味しい生牡蠣を頂く機会があり、生産地を確認したら、たつの市の室津産でうれしくなりました。同市には、私の好きな紅葉スポットもあるため、今年も必ず訪れたいと思っています。